

瑞泉寺の名鐘問題

兩博士の奔走に

文部省も好意的態度 當局も

重要美術に認められる?

高田城の夕時の鐘として由緒ある高川市南本町三丁目瑞泉寺の古鐘保存問題については其後も東大文學部教授花山信勝博士をはじめ緒土出身池内本博士、上越文化協會等の奔走で文部當局を動かすべく努力してゐるが、花山博士は調良同寺住持井上明海師に命じて鐘の寫眞數葉を撮らせ之れを帝室博物館

文部博士石川茂作氏の鑑定を求めたところ同博士より眞實によると形は大變良い譯です、又古式なところもありますから更なる角形美術の申請をしたらよいと存じます、申請には『時の鐘』といふ由緒を細かく



書いて主として其の歴史的な興味を強調されたが良いと存じます、形は良いにしても鐘は江戸時代のもので三百年以上経てゐないから普通なら賣られるものですが望みは其の歴史的な意味にあります
との力強い返事であつた、一方郷土文化のために何とかして此の名鐘を保存したいものだと思つた奔走を擧げてゐる池内本博士は先般法要に臨高を機會に直接井上師に
やつて由緒その他を聴取、市報掲載はじめ關係方面に折衝するなど、深くまじい懇談を示してゐるが、東京後文部省寄戸保存課長に面會して資料を提出したところ同課長は鐘の調査に全國へ人を派することとを考へたが旅費の都合で新潟縣へは派遣しないことになつたしかし派遣しない縣へは
方へよく意匠の傳
底する様に云つて
やるつもりだから新潟縣の方へは瑞泉寺の鐘についてもよく云つてやらう、それでも縣の方で強す價值なしと認めれば止むを得ないだらう
と願ふ好意的な態度を示したので池内氏も大いに満足して此旨上越文化協會へ報告して来た、同氏は之れに先立つて文部當局より年代的に歴長年間のものまでは文句なしに保存されるがそれ以後のものは各時代の代表的藝術作品に限つて保存するとの方針を聞き瑞泉寺の鐘は残念ながら以後ではあるが美術的價值のある點に望みを懸し、これが縣廳の勇を縣社寺課がとることを知り此旨文協に感謝して来たので以上兩博士の報告に力を得た上越文協では近日中に寫眞と由緒書を揃へて縣社寺課に提出
保存方 願情することになつた、因みに同鐘の藝術的價值ありと見られるのは上層の形と構造が一徹の彫刻、異り鉢伏せ形となつてをり頂の裝飾が眞實の様に願ふ藝術的に出来てゐる點で、この點が江戸前期の代表的特徴ある作品と認められるか否かによつて保存の有無が決定する譯である
(寫眞は瑞泉寺の鐘の頂の部分目上りと全体)